

欧州特許庁 モンサントの GM 大豆技術特許を取り消し

欧州特許庁 (EPO) が 2007 年 5 月、モンサント社が所有する遺伝子組み換え (GM) 大豆特許を取り消した。EPO は 13 年前 (1994 年 3 月) にこの技術の特許を承認したが、この発明には“新規性”がないというシンジェンタ社とカナダの環境団体・ETC の訴えを受け入れた。

この決定について伝えるネイチャー・ニュースは、この技術は導入される特定の遺伝子に言及することなくあらゆる種類の GM 大豆の作出の方法を述べるもので、その特許承認は、モンサント社が世界の GM 大豆市場で支配的地位を築くのに貢献した、従って、シンジェンタをはじめとする多くのバイテク種子企業は、この特許が、事実上、モンサントに対してすべての GM 大豆の支配権を与えるものと提訴、この特許取り消しを求めて 13 年間戦ってきたと説明する。

<http://www.juno.dti.ne.jp/~tkitaba/gmo/news/07050701.htm>